

1 題材名

『人・モノ・情報が行き交う新たな千葉市の姿』 <地理分野 2年生 「地域の在り方」>
～幕張新都心の開発を通して～

2 授業のねらい

- ①東京と成田空港のほぼ中間にあるのが千葉市です。市制100年を迎える千葉市の中で、幕張地区を「新都心」として開発する理由を人・モノ・情報という観点から考える授業です。
- ②なぜ幕張が新都心に選ばれたのか、新都心の開発のためにどのようなことが行われ、何が作られたのかを確認しながら、それが千葉市の発展とどう関わっているのか考察します。

3 指導計画上の位置付け

◇1～2時間扱い

◇第3編第4章：地域の在り方

千葉市の発展を考察しながら、日本の地理のまとめとして扱える内容です。

4 予想される授業の流れと指導資料

- ①幕張新都心にはどのようなものが作られ、集まっているのかを確認します。
 - * 進出企業、外資系の本社、スポーツ関連施設、(ロッテの) フランチャイズ、住宅、公園・・・
 - * 必要に応じて、航空写真や駅の乗降客数等の資料を提示
- ②開発・整備状況を年表や資料から確認します。
 - * 1967年 海浜ニュータウン計画
 - * 1978年 成田空港開港
 - * 1987年 東関東自動車道全線開通
 - * 1989年 国際コンベンション都市（幕張メッセ）
 - * 1990年 JR京葉線全線開通
 - * 1998年 国際交流都市・産業創出都市・文化創造都市
- ③新都心としてなぜ幕張地区が選ばれたのか、理由を考えます。
 - * 東京方面へのアクセスの良さ、近さ
 - * 広い用地の取得が可能（埋め立て等）
 - * 「港」の存在（千葉港、成田空港）
 - * 東京都心と成田空港の中間地（成田空港の存在価値の大きさ）
- ④幕張新都心の存在が『千葉市全体にとってどのような役割を果たしているか』を話し合い、発表して共有します。
 - * 国内外から多くの人、モノ、情報が集まる → 国際的・文化的交流の拠点
最先端事業の導入、〇〇モデル地区
 - * 多くの企業、訪問者、施設、パティオス（大規模マンション群） → 多額の税収入
 - * 知名度UP、イメージ向上 → 千葉市のブランド価値の上昇

<活用する主な資料>

- ◎幕張新都心開発計画（各時期） ◎整備年表 ◎全体地図 ◎主な施設
- ◎進出企業一覧 ◎航空写真 ◎京葉線乗降客数

5 指導上の留意点、その他

- ◇成田空港の貨物取扱量(金額)の詳細には触れず、品目及びその特徴を紹介する程度にとどめます。
- ◇人の流れだけでなく、モノの流れや街のつくり、情報の拠点なども意識することが大事です。効果的に資料を提示して、生徒の視野を広げられるとよいと思います。